



加賀聖城高校のグラウンドから見た錦城山

大聖寺と錦城山

加賀市の大聖寺は、中世に白山五院の一つ、「大聖寺」の門前町として栄え、江戸時代には加賀藩の支藩、大聖寺藩が置かれ、その城下町として発展した。「大」とは大いなるという事、つまり比べる事が出来ないという意味で、「聖」とは清らかなと言う意味。「大聖」は、仏教では最も尊いもの、お釈迦様を示すということ、「大聖寺」は白山信仰における重要な寺院であったと考えられている。

大聖寺の町からは修験の山であった二つコブの鞍掛山の奥に白山を望むことができる。白山と大聖寺を結ぶ直線上にその鞍掛山と、白山五院のうち、現存する温泉寺(山代薬王院)、と廃寺となった柏野寺が並び、その拠点となった大聖寺の重要性がうかがえる。

その「大聖寺」は錦城山に創建され、その後南方の小丘に移されたと言われている。錦城山には、南北朝時代に大聖寺城が築かれ、以来この城をめぐって激しい攻防が繰り返された。慶長五年(一六〇〇)、関ヶ原の合戦の際に、豊臣方に味方した大聖寺城主山口玄蕃は徳



大聖寺城本丸跡。標高わずか65メートルの錦城山だが、普段の運動不足がたたって途中で休憩しないと本丸跡までたどり着けなかった。

川方の前田利長と戦い、1日で落城。その後、前田氏によって城代が置かれていたが、元和元年(一六一五)の一國一城令で廃城となる。その後は「古城山」「御城山」と呼ばれたが、江戸後期からは雅名の「錦城山」が一般的となった。今、錦城山に登ると城の面影はわずかに土塁と堀跡を残すだけとなっている。



『加賀日和』7号でも紹介した「珈琲館 樹林」。「カフェ」ではなく「喫茶店」なのです。加賀市大聖寺荒町24

老いも若きも、男も女も、僕のような貧乏人も、お金持ちも、何かと無いものねだりをしがちだけれど、身近なマチの「あるもの探しの」小さな旅を試みよう。きっと新しい発見があるはずだ。

大聖寺。 あるもの探しの 小さな旅。

写真・文 タカヤナギユタカ

どこかの祭のように観光客向けに無理やりでっち上げた祭ではなく、昔から連綿と続く祭。居心地のいい喫茶店に、銭湯、豆腐屋、八百屋、魚屋、和菓子屋、パン屋、本屋。安くて旨い寿司屋、ラーメン屋。散歩するのに適当な川沿いの道と、ちよつと謎めいた路地裏。美術館と公園と古い家並みと歴史の香り。頑固だけど情が厚いおじさん、世話好きなおばさん、夢を抱く若者。江戸時代、あるいはそれ以前からの古い町名と町並み。そんなモノ、コト、ヒトが残っている大聖寺のマチは魅力的だ。



地域産業の振興と五穀豊穡を祈願する加賀神明宮(山下神社)の祭礼。ご神体をのせた神輿の練り歩きや子供山車、各種屋台などが出る。祭りの日、大聖寺の町中に注連縄(しめなわ)が飾られ、町内毎に獅子舞を舞う。